



第28期中執 スタート

2001・7・12. No.28-1

編集・発行：名大職組中央執行委員会

連絡先：4913 (TEL&FAX)

1年間どうぞ、よろしく

信任投票も終了し、第28期中執がスタートしました。大学のあり方が問われているこの時期、多くの教職員の声を聞きながら、組合員のみなさんと一緒に考え、一緒に手をとってあって組合の存在意義を示していきたいと考えています。フレッシュな中執を代表して、中央執行委員長と書記長の新任のあいさつをお願いしました。

痛いものは痛い

中央執行委員長 椿 淳一郎

第28期の委員長を務めることになりました。昔工支部の委員長を務めたことがありますが、中執は初めての新人(?)ですので、よろしく願いいたします。

大変な時期に大変な役を引き受けたというのが実感です。霞ヶ関にはよほど人が余っているらしく、これでもかこれでもかと思いつきの愚策を大学に投げつけてきます。大学は定割でただでさえ忙しいのに、保身のために誠実に時には先を争って愚策に対応しているのが現状です。理の通らない愚策が続けば、あちらこちらが痛くなります。いま我々が味わっている痛みは、明日につながる痛みではなく、破滅への痛みです。痛いものは痛い、と声を大にして言いましょう。沈黙は暗黙の了承です。

みなさんの支えがたよりです

書記長 小崎和子

真面目な(?)一組合員として永年多少なりとも組合の活動には携わってきていました。その延長線上に今回の書記長という任務もあるのだろうと思いますが、実のところ、この大切な時期に重責がはたせるかどうか、とても不安です。でも、とにもかくにも船出してしまいましたから、今期一緒に大役をつとめる中執のみなさんをはじめ多くの組合員のみなさんの支えを頼りに精一杯努力していく覚悟です。

まだスタートしたばかりですが、感激屋の私はすでに何人もの人との心のふれあいに涙してしまいました。こんな暖かいうれしい涙なら何度でも流したいと思います。人一倍感動する心は持ち合わせていますが、足りないのは理論、冷静な判断、先見性など書記長に必要と思われる資質です。こんなことでいいのだろうか...と思います。周りの支えさえあれば誰でも書記長ができるんだよというモデルになるつもりで一年間がんばります。

私たちをとりまく状況が大きく変わろうとしているこの時期、私たちは試されます。誠実に、めげずに、しかも的確に進んでいければと願いつつご挨拶いたします。

(第28期中央執行委員会の役員は裏面「公示」のとおりです。)